

ご意見・ご要望を
お寄せください

日本共産党 区議会報告

発行：日本共産党品川区議団
2012年1月号 発行責任者：飯沼 雅子
TEL.5742-6818 (直通) FAX.3778-3088
ホームページ **共産党品川** [検索](#)

大震災のりこえ、希望ある年へ

力を合わせ福祉と防災のまちづくりを



八潮団地で「品川区の子どもたちを守る会」のみなさんと測定する南区議(左)

心からみなさんに感謝します

子どもたちを守りたい一心で、手探り状態からのスタートでした。未来を担う子どもたちの健康と笑顔を何としても守りたい。私たちの陳情書を多くの議員さんに賛同いただき、心から感謝します。 品川区の子どもたちを守る会 代表 鈴木志織

原発事故による放射能汚染に不安が広がっています。共産党はお父さんお母さんの願いに応え、「放射能汚染から子どもたちの命と健康を守ることは社会に問われる重大問題」と、きめ細かい測定と内部被曝対策を区に要望。また区内300ヶ所の放射能測定を独自に行ない対応を迫りました。

区議会では「品川区の子ど

もたちを守る会」のお母さん達が、給食食材等の測定を求め508筆の署名を添えて陳情書を提出。全会一致で採択され、取り組みが大きく前進しました。運動の広がりが力となり、当初、区は拒んでいた側溝や雨どいの下などホットスポットになりやすい場所の放射能測定と除染対策、11月末からは小中学校と保育園の給

放射能ホットスポットや給食食材の測定が実現

区議会議員選挙から二年が経とうとしています。日本共産党区議団は、原発からのすみやかな撤退、東日本大震災の被災者救援に力を注ぐとともに、放射能汚染から子どもたちを守るためのきめ細かい測定や内部被曝対策の実現に奮闘しました。

大震災を経験したいま、政治の役割が正面から問われている。日本共産党は大震災をのりこえ、希望ある年となるよう住民のみなさんと力をあわせ、福祉と防災のまちづくりをめざします。

食食材のサンプル測定が始まりました。

さらなる対応強化を

今後は、ホットスポット測定の結果公表、給食食材の測定強化、区民が求める場所の測定、測定機器の貸し出し、家庭における子どもたちの内部被曝対策の周知など実施に力

被災者救援に全力

を注ぎます。

共産党は、学生、区民とともに宮城県石巻市の震災ボランティアに参加しました。街頭で行なった救援募金を届けるとともに、被災地では側溝の泥かき作業。「野菜を送って欲しい」との要望を受け、昨年10月は野菜募金を行い、被災地に直接届けました。共産党は被災者の救援を

災害弱者への支援を

共産党は障害者の声を紹介し、福祉避難所の整備、要援護者登録の対象拡大、支援計画の策定などを求めました。

東日本大震災で障害者、患者、高齢者など災害弱者は津波などの避難情報さえ十分に届かず、死者・行方不明者は一般の人より2倍と言われています。避難所では障害者が床に横になれず、10日以上も車イスに乗っ

たままだったという深刻な事態。品川区で暮らす障害者や家族からは「これが東京だったら、どうなるのか」と不安の声があらがりました。

区の現状は二次避難所(福祉避難所)に毛布やベット、食料などの備蓄や、医療・介護などの支援体制はなく、要援護者登録も遅れています。介護事業計画(案)に「福祉避



避難所となった学校体育館(福島県伊達市)

難所の機能強化」が明記され、自家発電装置や防災用品の備蓄などが計画化されました。



共産党品川地区委員会が呼びかけた震災ボランティア

第一とし、その生活と生業の再生に政治が責任を果たすことを強く求めます。

原発からの撤退を 日本共産党